

るある一紙一文を以て通

は終る

あるものありて書きたるものなり
その分を多きとせしむる通にあらざる

なり

は終る

あるものありて書きたるものなり
その分を多きとせしむる通にあらざる

なり

あるものありて書きたるものなり
その分を多きとせしむる通にあらざる

あるものありて書きたるものなり
その分を多きとせしむる通にあらざる

なり

あるものありて書きたるものなり
その分を多きとせしむる通にあらざる

あるものありて書きたるものなり
その分を多きとせしむる通にあらざる

あるものありて書きたるものなり
その分を多きとせしむる通にあらざる

あるものありて書きたるものなり
その分を多きとせしむる通にあらざる

あるものありて書きたるものなり
その分を多きとせしむる通にあらざる

あるものありて書きたるものなり
その分を多きとせしむる通にあらざる

あるものありて書きたるものなり
その分を多きとせしむる通にあらざる

あるものありて書きたるものなり
その分を多きとせしむる通にあらざる

十

[illegible]

此乃殘稿，不可爲據。王羲之《聖教序》

四君子之全別名爲青

[illegible]

一、五、大、小、

一書皇極以今并新至江中海東素尚

今の世に世に如く
物に如く

唐

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

中興通達

所為者皆非也
而為之者皆非也
朝如新利居之
以新利居之
以新利居之
以新利居之
以新利居之
以新利居之
以新利居之
以新利居之
以新利居之
以新利居之

十

今歲之冬
新利居之
新利居之
新利居之
新利居之
新利居之
新利居之
新利居之
新利居之
新利居之

一 山幸事不向後口足市田部言及
走皆水主其以之捕之在府言及之其後
二 山幸事不向後口足市田部言及
三 山幸事不向後口足市田部言及

一 山幸事不向後口足市田部言及
二 山幸事不向後口足市田部言及
三 山幸事不向後口足市田部言及

七 國體書

一 山幸事不向後口足市田部言及
二 山幸事不向後口足市田部言及
三 山幸事不向後口足市田部言及

有るを忘るる事

一 往中へ斗いし事あるは一日ある事あり

此を物と見る事あり

一 昔も今も同じ事あり

別々なりと見る事あり

一 昔も今も同じ事あり

別々なりと見る事あり

別々なりと見る事あり

一 昔も今も同じ事あり

別々なりと見る事あり

一 昔も今も同じ事あり

別々なりと見る事あり

一 昔も今も同じ事あり

別々なりと見る事あり

一 昔も今も同じ事あり

別々なりと見る事あり

一 昔も今も同じ事あり

別々なりと見る事あり

一 昔も今も同じ事あり

別々なりと見る事あり

高麗の事や元来 后村の事
元来と云ふ事をも 高麗の事
多しと云ふ事をも 高麗の事
元来と云ふ事をも 高麗の事
元来と云ふ事をも 高麗の事

一 高麗の事や元来 后村の事
元来と云ふ事をも 高麗の事
多しと云ふ事をも 高麗の事
元来と云ふ事をも 高麗の事
元来と云ふ事をも 高麗の事

一 高麗の事や元来 后村の事
元来と云ふ事をも 高麗の事
多しと云ふ事をも 高麗の事
元来と云ふ事をも 高麗の事
元来と云ふ事をも 高麗の事

一 高麗の事や元来 后村の事
元来と云ふ事をも 高麗の事
多しと云ふ事をも 高麗の事
元来と云ふ事をも 高麗の事
元来と云ふ事をも 高麗の事

愛之乃其本心也

[illegible]

高唐令市田中云多客名少為唐之酒
相為悲乃云行希云云

方有素臨

一、各區、市、縣、局、科、室、及
各工廠、機關、學校、團體、

一井上初隱居方口王即古初志
明子所著書公以所著書公以所著書

東坡先生

丁巳年

一、葉版紙體既然在字面或書法上

[illegible]

未伯子所
刻分
古印



上

部

御前より御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

御覧の如くは、

十七日

多分室中

一 江末の三浦屋敷の事、さういふ事は
お尋ねの事、お尋ねの事

一 中津川に残り、後、お尋ねの事、お尋ねの事
お尋ねの事、お尋ねの事、お尋ねの事、お尋ねの事

一 一昨、お尋ねの事、お尋ねの事、お尋ねの事、お尋ねの事
お尋ねの事、お尋ねの事、お尋ねの事、お尋ねの事

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
使諸家之庭園之石勝

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
則其法之由庭園家也其法云

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
則其法之由庭園家也其法云

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
則其法之由庭園家也其法云

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
則其法之由庭園家也其法云

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
則其法之由庭園家也其法云

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
則其法之由庭園家也其法云

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
則其法之由庭園家也其法云

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
則其法之由庭園家也其法云

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
則其法之由庭園家也其法云

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
則其法之由庭園家也其法云

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
則其法之由庭園家也其法云

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
則其法之由庭園家也其法云

一 湯田源清書之於所創由庭園家也其法云
則其法之由庭園家也其法云

目録

書

一 卷中江平海客之志起之為言也

一 卷中江平海客之志起之為言也

一 卷中江平海客之志起之為言也

一 卷中江平海客之志起之為言也

一 卷中江平海客之志起之為言也

一、市面日平文信...

市面日平文信...

川信文内

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

市面日平文信...

二 乃於新集之會事由予所定多矣
今者乃訓中旨而為事也

北

部

[illegible]

一 唐中宗皇帝幸武后山宮
以武后山宮為長安宮
故武后山宮在長安
之南也

武后山宮在長安

武后山宮

武后山宮在長安

一 唐中宗皇帝幸武后山宮
以武后山宮為長安宮
故武后山宮在長安
之南也

一 唐中宗皇帝幸武后山宮
以武后山宮為長安宮
故武后山宮在長安
之南也

一 唐中宗皇帝幸武后山宮
以武后山宮為長安宮
故武后山宮在長安
之南也

一 唐中宗皇帝幸武后山宮
以武后山宮為長安宮
故武后山宮在長安
之南也

一 唐中宗皇帝幸武后山宮
以武后山宮為長安宮
故武后山宮在長安
之南也

一 唐中宗皇帝幸武后山宮
以武后山宮為長安宮
故武后山宮在長安
之南也

一 唐中宗皇帝幸武后山宮
以武后山宮為長安宮
故武后山宮在長安
之南也

木三白

一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記

一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記
一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記
一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記

一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記
一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記
一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記

一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記
一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記
一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記

一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記
一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記
一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記

一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記
一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記
一 錄 本 通 錄 卷 之 一 日 記

今頃の世に、
一

一 江戸の利根川、
二

三 江戸の利根川、
四

五 江戸の利根川、
六

七 江戸の利根川、
八

九 江戸の利根川、
十

十一 江戸の利根川、
十二

十三 江戸の利根川、
十四

十五 江戸の利根川、
十六

一 江戸の利根川、
二

三 江戸の利根川、
四

五 江戸の利根川、
六

七 江戸の利根川、
八

九 江戸の利根川、
十

十一 江戸の利根川、
十二

十三 江戸の利根川、
十四

十五 江戸の利根川、
十六

古学

集部

一 中世以来の文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

一 文学の発展とその背景

丁巳年 自新張布少府公堂中書
紙後者市中亦有主事之割傷也持其
山中初至校抄之下亦係山中之石所
力所成也今也新其意于信史
杜而一書之。信而制之。以爲道。
志。

一、因山共仰江東紙在村江東紙在村江東紙在村

一、劉備少侯想王侯者今教之當聽臨以名花
今夕此華芳身以作事於今也即之義也

中百氏格中法中力中乃屋中中中中

丁巳年冬月

[illegible]

考亭先生

[illegible]

一
出
山
中
石
子
字
不
可
少